

心とぬくもりのある医療・福祉

院外広報誌

April 2014

No.59

# ふつかいち

特集

診療の最前線 ～救急医療の現状～



病院前の桜並木

## Contents

- ◆ Page1~2 呼吸器内科紹介
- ◆ Page3~4 診療の最前線  
～救急医療の現状～
- ◆ Page5~9 部門紹介  
看護部 / 薬剤部 /  
臨床工学室 / 栄養部
- ◆ Page10 地域連携登録医のご紹介  
・こでら内科医院  
・神崎内科クリニック
- ◆ Page11 無料・低額診療事業のお知らせ

地域医療支援病院

災害拠点病院



福岡県済生会二日市病院

Saiseikai Futsukaichi Hospital





### 済生会二日市病院



呼吸器内科 スタッフ 左から 財前、石見、末安、松本、岡山、西山

## 当科の特徴

呼吸器内科が、平成16年4月に当院に開設されてはや10年、今年度から11年目に入ります。開設当初は2人体制でのスタートでしたが、平成24年度以降は5人体制となり、余裕を持って診療に携われるようになりました。呼吸器内科医全員が久留米大学呼吸器 神経 膠原病内科からの出向ですが、九州地区あるいは全国的にみても地域の中核病院規模でこれだけの人数を確保できる施設はそう多くはないと思われ、身に余る幸運にただ感謝するばかりです。

当科で診療にあたる疾患は、肺炎などの呼吸器感染症、肺癌、喘息・COPD（慢性閉塞性肺疾患）、気胸などのコンディージーズから間質性肺炎などのびまん性肺疾患に至る稀少疾患まで多岐にわたります。手術不能の肺癌に関しては、放射線治療施設がないため、主に久留米大学病院と連携して治療にあたっていますが、その他の疾患についてはほぼ院内でカバーできます。特に呼吸器外科との連携は強く、当院には福岡大学呼吸器・乳腺内分泌・小児外科から常勤医が一名出向されていますが、手技的なことから気胸や肺癌の手術症例、びまん性肺疾患の胸腔鏡下肺生検の適応まで気軽に相談できることも大きなメリットとなっています。入院患者さんの7割以上は予定外入院であり、緊急性が高い疾患を取り扱っているこ

とも特徴のひとつです。

また、当院は日本呼吸病学会および日本呼吸器内視鏡学会の認定施設でもあります。若手の呼吸器科医や研修医にとっては、呼吸器疾患全般を手技的なものも含めて幅広くみることもできるとともに、救急医療も経験することができる利点があります。

## 診療内容・実績

平成24年度に当科に入院された患者さんのべ総数は、824名でした。疾患別内訳（図1）は、中核病院の一般的な特徴に変わらず誤嚥性肺炎を含めた肺炎が最も多く、約半数を占めていました。これは前年度より約50名の増加でした。次に多かったのは肺癌の化学療法や気管支内視鏡下肺生検目的の入院で、約20%と前年度とほぼ同等でした。次いで間質性肺炎、気管支喘息、COPDの急性増悪、気胸が約5%ずつみられました。その他の入院としては、胸膜炎、敗血症やARDS（成人呼吸促迫症候群）、肺真菌症、肺抗酸菌症、気管支拡張症等が約1~2%ずつみられました。

過去8年間に呼吸器内科に入院された患者さんの数と過去6年間に施行した気管支内視鏡検査の件数の推移（図2）を示します。平成21年度以降は、入院患者数は年間概ね800名以上、気管支内視鏡検査件数は100件以上、平成25年度も同様の数値を維持しています。



図3に、厚生労働省の診療報酬調査専門組織 DPC評価分科会における情報をもとに病院情報局が提示した、平成24年度の当院呼吸器内科の平均在院日数、月平均退院患者数(図4)及び筑紫医療圏におけるシェア(図5)を示します。前述のように当院の入院患者の約半数は肺炎で、しかも高齢者が多いのが特徴であり、これらの患者さんは肺炎が治癒しても廃用やADL(日常生活動作)低下により自宅退院が困難な場合が少なからず見受けられます。以前は療養型病院への転院までにある程度の時間を費やしていましたが、最近では地域医療連携室やリハビリテーション部のサポート体制の充実により、スムーズな転院や自宅退院が可能となる患者さんが増えました。平均在院日数が徐々に減少した背景にはこのような院内の連携があります。一方で退院患者数は月平均70名程度に維持されており、医療圏シェアは右肩上がりに上昇しています。

また、同じく病院情報局の資料によると、当科の年間肺炎患者退院患者数は福岡県下の全病院中第5位であり、呼吸器疾患患者数は県下300症未満の病院中第2位でした。いずれも、筑紫医療圏の皆様へ呼吸器専門科として認識して頂いた結果と大変感謝しています。



気管支内視鏡検査

## これからの10年

これからの10年は、これらの特徴を生かして地域との連携をより深め、筑紫医療圏の呼吸器疾患の専門的治療への貢献と地域の必要度に即した医療の充実を目指します。同時に臨床研修施設として、地域の中核病院として、若手医師の教育、育成にもこれまで以上に力を入れることが責務と感じています。

まだまだ行き届かない点も多いと思いますが、周囲の皆さんにご助言を頂きながら、呼吸器内科医として最善の医療を提供できるよう努力する所存です。

図1 平成24年度入院患者疾患別割合

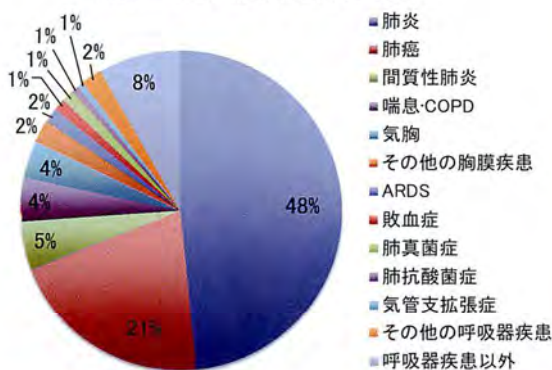


図2 入院患者数、気管支内視鏡件数の年次推移

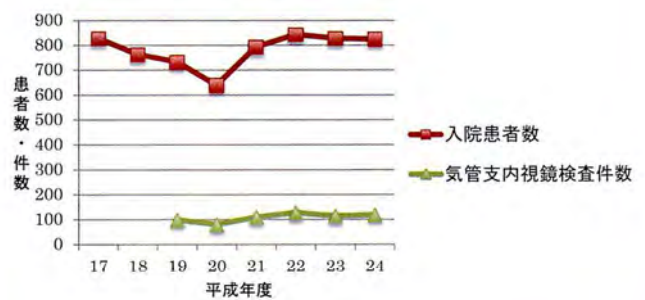


図3 平均在院日数

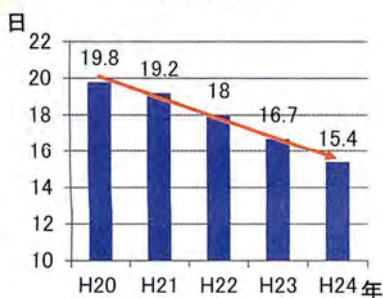


図4 月平均退院患者数

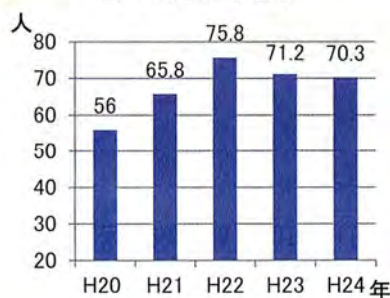
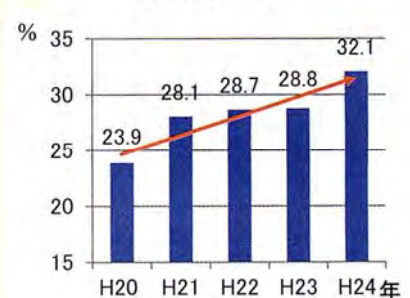


図5 医療圏シェア





# 診療の最前線

～救急医療の現状～

## 救急部



救急部長兼麻酔科 主任部長 宮川 貴圭

### 受け入れ体制

救急部は、救急車で搬送される患者のみならず、自分で来られる患者まで、すべての患者を受け入れ、直ちに重症度を判断し治療を行う部門です。救急車以外で来院される1日300～400人の患者の中にも重症な患者が混在するので、院内トレーニングを受けた看護師がトリアージ（緊急度、重症度の選別）を行い、救急外来での診察・治療対応もしています。

その後は、必要に応じて各科専門医にコンサルトし、

高度な治療を行います。現在、救急部としては内科・外科のチーム体制として救急車の受け入れ対応をしています。24時間365日救急車で搬送される1日5-15人以上の患者さんの初期診断、初期治療を主に行い、救急部長を中心に診療統括副院長の協力を得て、初期対応の医師からスムーズに院内の各科専門医に引き継ぎます。

### 対象疾患

対象疾患は二次救急患者が中心であり、救命処置を要する致死的病態（心肺停止、急性循環不全、急性呼吸不全）、溺水、熱中症、偶発性低体温症、急性腎不全、急性肝不全、急性冠症候群、脳卒中などに迅速に対応しています。

現在、軽症～重症までの救急診療を行っています。救急室において初療を行ない、必要に応じて各専門科へ速やかに引き継ぐ事で、より専門的かつ高度な医療を円滑に提供できる体制を整えています。重症症例や特殊な症例については、ICUおよび一般病棟へ入院の上で、引き続き当科にて加療を行っています。

### 救急部スタッフ



救急部の看護師は計26名で、救急外来（9名）とICU（病床数6床、17名）をローテーション勤務しています。緊急心臓カテーテル検査治療の介助も行います。まだまだ十分な人員とは言えませんが、それぞれが院内外の救急医療に誇りをもって頑張っています。



## 受入実績

平成24年度は3400件の救急搬送患者を受け入れており、筑紫野市を中心として太宰府市・春日市・大野城市などの筑紫医療圏、さらに夜須町や基山町などにわたる地域における救急医療の中心的役割を担っています。平成24年度の救急車搬入患者数は、3,617名で、うち、時間内救急患者数は、1,735名、時間外は、1,882名で、入院となった患者さんは受診者総数の38.7%でした。

### 救急車搬入台数



## 今後の役割と課題

現在救急専従医の不在は痛手ではありますが、それでも地域の救急医療の中心を担えるよう病院全体で取り組み、昨年度は災害拠点病院の指定も受け、更に病院としての役割が明確になってきました。

今後の課題としては、専従医の育成、管理統括者の育成、各部署の看護師長、主任クラスの者とも協力し合い一般病棟との連携がスムーズに行く体制の整備が急務であります。

現在、全国で問題となっている救急車の不応需症例に関しては、この地域でも同様ですが、更なる近隣2次・3次医療機関との連携を行うこと、医師会や地区の消防との顔が見える救急医療を構築する必要があると思います。今後とも地域の先生方と協力し、安心して住める地域作りを目指し、レベルの高い救急医療体制を築き、地域の活性化に貢献したいと考えています今後とも宜しくお願いいたします。

急性呼吸不全、急性循環不全、急性腹症などお困りの症例がありましたら、御相談下さい。

### 救急部処置室



採血、超音波、レントゲンなど様々なデバイスを用いて検査をします。

### ICU



24時間モニタリングしながら管理しています。

### ICU病棟



ICUでは人工呼吸器、血液浄化、PCPSなど高度な医療機器を用いて全身状態の改善に努めます。

### NPPV



NPPV（非侵襲的腸圧喚起療法装置）。気管内挿管や気管切開をしない新しいタイプの人工呼吸の方法。



# 部門紹介

## 看護部

看護部紹介 その1

### 【看護部理念】

**責任ある行動と信頼される技術  
あたたかい心で満足できる看護をする**

### 【看護部の中枢である看護課長】



課長会議の様子

### 【看護部の紹介】

- ◆ 看護単位とは、「看護管理の1単位。責任者（看護課長）の元、看護を提供する集団のこと」をいいます。
- ◆ 当院には、9単位の看護職員集団が日々看護理念を念頭に置き看護部目標を達成するために努力しています。

**外来部門** : 3看護単位

外 来   透析センター   手術室

**救 急 部** : 1看護単位

救急外来・集中治療室

**病棟部門** : 5看護単位

4階病棟   5東病棟   5西病棟   6東病棟   6西病棟

計 9看護単位

### 【平成26年度看護部目標】

1. **ワークライフバランスの定着・拡大**
  - 適正夜勤時間の導入と定着
  - 中堅看護師が働き続けられる環境づくり
2. **地域とつながる看護連携の推進**
  - 教育ネットワークへの協力を通し看護力の向上に尽力する
  - 患者の生活（家族、仕事、経済等）を統合的に捉え多職種と協働し必要なケアを提供する
3. **安全・安楽な看護の実践と質の維持・向上**
  - PNS（パートナーシップナーシングシステム）の導入
  - 自ら学び、考え、行動するための知識と技の習得に各人が努力する
  - 接遇・身だしなみの意識を高める



目標は、管理者研修（ワールドカフェ）・看護課長会議等で協議し決定しています。



【看護係長】



係長は総勢13名います。(代表者7名)

【外来部門】

手術室



手術はまかせて！  
チームワークばっちりだぜ。ピース!!

外 来



外来は、病院の“顔”  
親切・丁寧を心掛けていきます

透析センター



安心安楽な透析療法を目指しています

救 急 部



救急部は、救急外来と集中治療室を持っています！  
チームワークで、円滑な救急医療を目指しています

次号、看護部の活動を紹介します！



# 部門紹介



## 薬剤部

薬剤部長 横尾 賢乗

スタッフ：薬剤師 12名 助手 1名

### 「安心で安全な薬物治療の実践」

という基本理念を掲げ、薬剤師12名、薬剤助手1名で、日々の業務にあたっています。  
今回はその業務の中から「病棟薬剤業務」と「薬薬連携」について簡単に紹介させていただきます。



#### 病棟薬剤業務

病院薬剤師の業務として平成24年より新たに加わった業務です。当院でもその年の7月から薬剤師が病棟に常駐し次のようなことを行っています。

- 入院された患者さんまたはご家族と面談をし、持参されたお薬、市販されているお薬、健康食品等の内容、服薬の状況を確認し飲み合わせ等の確認をしています。またその際アレルギー歴、副作用歴の確認もしています。
  - お薬を使用する際には効果や飲み方(使用方法)、起こり得る副作用とその対処法の説明を患者さんまたは家族に行っています。
  - お薬の使用後には効果が出ているか、副作用が出ているかを確認しています。その上で内容を医師へ伝えお薬の処方設計や提案をしています。
- 現在は1日4～5時間の病棟常駐しか出来ていませんが、1日常駐のための体制作りを検討しているところです。今後は薬剤師が病棟で常に業務を行うこととなります。入院中の薬のことは病棟担当者に気軽にご相談ください。

#### 薬薬連携勉強会

医薬分業が進み、病院薬剤師は入院患者さんの薬剤管理指導を、薬局薬剤師は外来患者さんの薬剤管理指導を行うという機能分化が定着しました。そのため、入院⇔外来を通じて患者さんをしっかりフォローして行くには、両者が患者指導の標準化や情報の共有化を図ることが重要です。そこで当院では、患者さんに適正で安全な薬物治療を提供することを目的に平成21年より薬薬連携勉強会をスタートさせました。年に3～4回1時間程度で毎回30名ほどの参加者があります。現在では15回を数え、実践的な患者指導を目指した検討の場として有意義なものになっています。今後も多くの先生方と連携を深めたいと考えています。参加希望の方はぜひご連絡ください。

#### 薬剤部の主な業務

- 調剤業務
- 注射薬調剤
- 無菌製剤業務(抗がん剤の調製)
- 製剤業務
- TDM(薬物血中濃度モニタリング)
- 薬剤管理指導業務
- 病棟薬剤業務
- 医薬品情報提供(DI)業務
- 医薬品管理
- 麻薬管理
- 病棟保管薬管理
- 治験薬管理業務
- 教育研修(薬学生実習の受け入れ)
- NST、褥瘡、感染症チームでの活動
- 糖尿病、肝臓病、心臓病、生活習慣病、呼吸器病、脳卒中教室で薬について講義
- 薬薬連携勉強会



#### 薬薬連携勉強会

当院薬剤師による講演や実技指導、当院医師の講演、そして時には調剤薬局の先生による発表などを織り交ぜて色々なテーマで開催している。講演終了後には、テーマに沿った討論やそれぞれの薬局が抱えている問題点などを出し合う自由討論の場を設け情報交換を行っている。



※これまでに行った勉強会の主なテーマ

- インスリン自己注射ならびに血糖測定のための患者指導
- がん患者に対する服薬指導
- ワーファリンの服薬指導
- 医療安全管理 ～調剤過誤をなくそう～
- 調剤薬局における吸入指導
- ヨード造影検査のリスクファクターと対応策



# 臨床工学室

臨床工学室 技士長 浦志 崇久

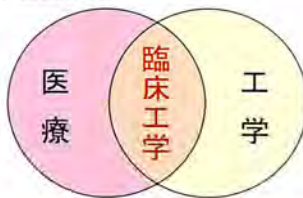
スタッフ：臨床工学士 6名

## 臨床工学技士って？

はじめまして。臨床工学技士って御存知ですか？病院の職員と言えば、医師、看護師……。残念ながら、一般の方々の中に私達の職名が出てくることはあまり無いでしょう。そこで、私達の職業「臨床工学技士」とは、どのような医療職種なのかを紹介させていただきます。

臨床工学技士とは、医師や看護師と同じ様に国家資格を持ち、生命科学と工学の境界域で、チーム医療の一環を担い働く職種です。誕生から25年余りとまだまだ若い医療職種です。

臨床工学の位置付け



## どんな仕事なの？

一言で言えば、「生命維持管理装置の操作・保守管理」です。生命維持管理装置とは、人工呼吸器や血液透析装置、人工心肺装置などの命に直結する機器（生体機能代行装置）を操作する事や、各機器が安全に動作する様に日常的に点検・管理する仕事です。これ以外にも注射薬を正確に投与する機器など、生体機能代行装置では無い医療機器も数多く存在します。



血液透析装置



補助循環の様子



## 当院での業務

現在、当院には6名の臨床工学技士が在籍しています。工学的な業務は、約700台の医療機器の管理を行っており、機器の定期的な動作点検やメーカー承認を受けた機器に関しては、修理を行っています。使用中機器のトラブルにも対応しています。医学的な業務としては、血液透析業務や人工呼吸器業務、高気圧酸素治療業務、手術室業務、心筋梗塞などの治療となる心臓カテーテル治療業務、心臓と肺の救命補助となる補助循環装置業務など多方面で、私達が行かない場所は無いと言うくらいに、幅広く業務を行っています。休日や夜間の緊急呼出しや泊り込みになることもあります。この他、医療機器選定時の助言や院内スタッフへの医療機器の研修会、在宅酸素治療患者様への導入教育なども行っています。



高気圧酸素療法

## おわりに

医療技術は日々進歩しています。24時間365日この様な多くの業務を6名で対応するのは大変ですが、患者様に喜んで頂くことが出来た時、とても大きな喜びを感じます。まだまだ私達の活躍の場は多くあると思いますので、数年後には「臨床工学技士」と言う職名が、誰でも知っている名前になる様に日々頑張りたいと思います。



# 部門紹介

## 栄養部

栄養部 科長 西村 悦子

スタッフ：管理栄養士 5名 調理師 13名  
調理パート 3名 洗浄員 4名

私共、栄養部は安全、安心かつ患者様に喜んで食べて頂ける食事の提供をモットーにしています。  
患者さんの嗜好を取り入れながら、1日約600食、薄味でも美味しいヘルシーメニューの作成を日々行っています。



### 給食管理

#### ◆ 適時適温

朝食7:30、昼食12:00、夕食18:00と理想的な食事時間  
そして、温冷配膳車で、温かいものは温かく冷たいものは冷たく適温で提供しています。

#### ◆ 行事食

行事食(正月・ひな祭り、  
七夕、体育の日など)は  
年16回提供しています。



#### ◆ 選択メニューにも対応しています

1日2回(朝・夕)、週3回  
朝がパンかごはん、夕食が主菜が(和食・洋食・  
中華のどれかから)選べます。

#### ◆ 個別対応

アレルギーや食欲低下の  
患者様には病室訪問にて  
お話を伺い別献立にて対  
応しています。



### 栄養管理

#### ※ 栄養管理計画

医師・看護師・コメディカルスタッフと連携を取りながら、患者の栄養状態の把握、栄養管理の計画を立て実施、評価を行い、食事の摂取、栄養状態の改善、患者の自立を支援することを目的として行っています。

#### ※ 個別栄養指導

食生活改善のアドバイスや治療食への理解や継続ができるように医師の指示のもと入院・外来での栄養指導を行っています。

#### ※ 集団栄養指導

各々の疾患ごとに医師、看護師、コメディカルとチームで教室を開いています。

- 生活習慣病予防教室(調理実習含む)
- 糖尿病教室
- 肝臓病教室
- 心臓病教室(手軽にできる野菜料理実習含む)
- 呼吸器病教室
- 脳卒中教室



# 地域連携登録医のご紹介

## こでら内科医院



院長 小寺 武彦 先生

### 【自院紹介】

当院では、生活習慣病の指導及び加療を中心とした診療を行っております。

特に糖尿病に関しては、糖尿病療養指導士の資格をもつ栄養士による外来食事指導、看護師によるインスリン自己注射導入、自己血糖測定指導などの専門的な診療が可能となっています。また、患者さん自身に糖尿病食を実際に調理していただく、集団食事指導を月1回実施しています。

### 【診療科目】

内科・内分泌・糖尿病内科

### 【専門医資格】

日本糖尿病学会専門医・日本内科学会認定医

### 【主な専門分野】

糖尿病・高血圧症・脂質異常症・甲状腺疾患



所在地：太宰府市観世音寺1-29-26

電話：092-923-7330

FAX：092-923-7330

【診療日時】		月	火	水	木	金	土	日・祝日
午前	9:00~13:00	●	●	●	●	●	●	×
午後	14:00~18:00	●	●	●	×	●	×	×

## かんざき内科クリニック



院長 神崎 敦子 先生

### 【自院紹介】

かかりつけ医として地域に根差した医療を目指して頑張っております。

生活習慣病をはじめとする内科一般および消化器疾患の診療を行っています。

胃カメラ、腹部エコーなどの検査も行っています。また、在宅診療にも力を入れて取り組んでおります。

### 【診療科目】

内科・消化器科

### 【専門医資格】

消化器内視鏡専門医

### 【主な専門分野】

消化器内科



所在地：太宰府市観世音寺1-4-30

電話：092-920-2626

FAX：092-920-2620

【診療日時】		月	火	水	木	金	土	日・祝日
午前	9:00~12:30	●	●	●	●	●	●	×
午後	14:00~17:30	●	●	●	×	●	×	×



# 無料・低額診療事業のお知らせ

当院では社会福祉法人として、  
無料・低額診療事業を行っています



## 無料・低額診療とは

社会福祉法第2条3項に基づいて、生計困難な方が経済的理由により必要な医療を受ける機会を制限される事がないよう、無料または低額な料金で医療を受けていただくための制度です。

## 制度の対象となる医療費

入院時の保険診療費のうち窓口負担分が対象となります。

※私費分（室料、病衣、容器代）・食事一部負担金は対象となりません。

## ご利用いただける方

各医療保険の「限度額適用認定証」を提示された方のうち下記に該当する場合に適用になります。

- ① 適用区分 C
- ② 適用区分 I
- ③ 適用区分 II

※ 適用区分は「限度額適用認定証」に記載されています。

## 制度の申請手続き方法

限度額適用認定証、印鑑をお持ちの上、1階医事課受付までお越しください。お話を聞きした上で、手続きについてご説明します。

なお、ご相談の受付時間は次の通りです。

平日 8:30～17:00  
土曜日 8:30～12:30  
日曜日 休み

## 理念

やさしさとあたたかい心のある医療・福祉を目指します

## 基本方針

1. 急性期医療から福祉サービスまでの安全・安心な医療を提供します。
2. 医療水準の向上を図り、患者さまに信頼されるチーム医療を提供します。
3. 職員の研修、教育、研究の充実を図り、人材育成に努めます。
4. 地域に貢献し、地域完結型医療の構築を目指します。

## 編集後記

今年は例年以上に寒い日が多く、各地では豪雪による被害もたくさん発生しました。そんな厳しい冬も突然のように終わり、当院の前の道辺には、桜の花がいつせいに開花し、見る人の気持を和ませてくれています。この春からは消費税が8%に上がり、みなさんの暮らしにも随分影響が出るのではないかと思います。満開の桜を愛でながら宴でも開き、友人、知人たちと盛り上がりたいたいものですね。

## 院外広報誌 ふつかいち 第59号

平成26年4月1日

発行者 間野正衛 編集 広報委員会  
発行 福岡県済生会二日市病院  
〒818-8516 筑紫野市湯町三丁目13番1号  
TEL 092-923-1551 FAX 092-924-5210  
<http://www.saiseikai-futsukaichi.org>